

とりなしの祈り

「したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります」(ヘブル7:25)

主イエス・キリストは私たちの罪のために十字架で死んで下さり、救いの道を開かれました。そして復活され、今も生きておられる主は、天上で新しい働きをしておられます。

その働きとは、私たちが主イエス様に近づき、交わり、お祈りするなら、御座におられる主イエス様が父なる神様に常にそれをとりなし、みこころに従って叶えて下さることです。

それにもかかわらずもし、私たちが主イエス様と交わりをせず、祈らないでいるなら、父なる神様にとりなしの祈りをする材料が、主イエス様にありません。私たちが祈らなければ、主イエス様は働きません。それほど私たちクリスチャンの祈りは重要なのです。

聖書の学び

I、教会のとりなしの祈り

1、初代教会の信徒たちは、それまで各自がそれぞれでお祈りしていたようです。

①ペテロが捕まった時、皆は何を心配したのでしょうか？(使徒の働き12:2)

②教会はどうしましたか？(使徒の働き12:5)

2、集まって熱心に祈り続けたとりなしの祈りにより、ペテロはどのようにになりましたか？(使徒の働き12:6～11)

3、それまでこのように集まってとりなしの祈りをする事、その祈りに答えられる経験がなかったようです。牢から救い出されたペテロが来たとき、彼らはどうだったのでしょうか？(使徒の働き12:12～17)

Ⅱ、あわれみと時にかなった助け

1、 とりなしの祈りの良い見本は、創世記18章17～33節です。このアブラハムのロトのためのとりなしの祈りを調べてみましょう。

①ソドムとゴモラの滅亡について知ったアブラハムは、ロトのために主の前に立って、どのようなことを申し上げましたか？(創世記18:23～25)

②50人から始めたアブラハムのとりなしの祈りは、10人のまで至りました。主なる神さまはどのような方でしょうか。

③もし、アブラハムのとりなしの祈りがなければ、ロトの家族はどうなっていたでしょうか。

2、 旧約においてでさえ、祈りに応えてくださるなら、十字架でいのちを捨てるほど、大切に思ってください私たちの祈りを、主イエス・キリストが聞いて下さらないはずはありません。

①ヘブル4章16節を読みましょう。

②恵の御座とはどこのことを言っているのでしょうか？

③神の臨在の恵の御座におられる主イエス・キリストに、私たちはどのように祈るべきでしょうか？